

# 令和2年度“オール近大”新型コロナウイルス感染症 対策支援プロジェクト研究報告書

企画題目	アフターコロナにおける学業満足度の測定と学修支援に関する研究・提案
研究者所属・氏名	研究代表者：布施匡章 共同研究者：藤本和則、佐々木俊一郎、マルデワ・グジェゴジュ

## 1. 研究、開発・改良、提案目的・内容

本研究では、コロナ禍で学修環境や生活環境が大きく変化した現時点において、学生の学業満足度や幸福度についてのアンケートを実施し、経済的・精神的・学習方法の支援が必要な学生の特定と学修意欲につながる講義のあり方に関する研究支援を目的とする。

## 2. 研究、開発・改良、提案経過及び成果

### (1) アンケートの実施

2020年4～5月と2020年10～11月の2度、経営学部・経済学部生に対してアンケートを実施した。それぞれ2703、1207の標本が得られた。

### (2) アンケートの結果：幸福度

・幸福度の減少は特に1年生において顕著である。2020春時点でこれまでの平均値よりも1年生の幸福度は低いが、2020秋により下がっている。2～4年生の幸福度は2020秋には回復している。人間関係の満足度の減少が主たる原因と考えられる。

・学生の幸福度に影響する要因は、男性の方が女性よりも低い。自由に使える時間、自由に使えるお金、達成したい目標、LINEの友人数、親友の数、1週間に撮影した写真枚数、恋人がいると、幸福度と正の相関がある。

・2020春から秋にかけての幸福度の変化に着目すると、男性は特に減少しており、達成したい目標がある人、写真を多く撮る人、恋人がいない人、オンライン時間が長い人は特に減少している。

・恋人がいない、オンライン時間が長い1年生男子が、コロナ禍で最も幸福度を下げている。

### (3) アンケートの結果：学業満足度

・2020秋のアンケートでは、学業満足度はこれまでで最低値となった。

・2020春から秋にかけての学業満足度の減少は、留年不安の増加、授業の満足度の減少、学力に自信があっても満足度が得られにくくなった、ことによる。

・1年生の女子は特に学業満足度が減少している。

### (4) アンケートの結果：マスク着用

・マスク着用理由は、自分が感染するのを防ぐ(44.3%)、他人に感染させるのを防ぐ(30.0%)、皆がマスクをつけているため(13.9%)、ルールとして定められているため(8.9%)

・オンライン時間との相関が高く、1日のオンライン時間が長いほど「自分が感染するのを防ぐ」という回答が減り、「他人に感染させるのを防ぐ」回答が増える傾向にある。

3. 本研究と関連した今後の研究、開発・改良、提案計画

コロナ禍におけるオンライン講義等の学修環境・生活環境の変化が、学業満足度や成績へ与える変化をさらに分析する。また、どのようなカテゴリーの学生が学業満足度や幸福度がどの程度減少しているのか、数値としてより詳細に示す。

次年度以降も同様のアンケートを実施し、アフターコロナにおける学生の学業満足度や幸福度を高めるためにオンライン、対面を併用した新たな学修環境を提案する。

4. 研究成果の発表等

発表機関名	種類(著書・雑誌・口頭)	発表年月日(予定を含む)
アジア開発銀行	口頭	2020年12月14日

5. 開発・改良、提案課題の成果発表等

未定